

二〇一三年二月二〇日

葉牡丹の渦に光るは昨夜の雨
デッサンに見目よき林檎選びけり

つくし
さつき

二〇一三年二月一九日

ふるさとの歌でおひらき忘年会
尺八の楽の漏れ来る白障子

満天
三刀

二〇一三年二月一八日

街路樹の光のショーに年惜しむ
朝漁の戻るを待てる浜焚火
マフラーを覆面巻きにバイクの娘

菜々
なつき
うつぎ

笹鳴きに誘はれ入りぬけもの道
孫と手を繋ぎ買い物クリスマス

雅流
こすもす

二〇一三年二月一七日

朝市のテント謝恩の芋煮鍋
落柿舎はここにあるよと子守柿
雪雲が頭上を過ぎる足湯かな
白き息はずませママを呼びに來し

うつぎ
ぼんこ
なつき
有香

二〇一三年二月一六日

冬の月一朵の雲も見当たらず
年迫る第九の稽古余念無く

菜々
つくし

聖樹の灯窓より洩るるケアハウス
ちゃんちゃんこ法衣を脱げば好々爺
省くこと多し余生の年用意

せいじ
宏虎
はく子

二〇一三年二月一五日

寺抱きて眠りに入りし羅漢山
おでん酒意気投合し相識らず

はく子
宏虎

二〇一三年二月一四日

大寺にひびく槌音年用意
唐門へ白山茶花の磴ごごし
尼寺の庫裏の軒先大根干す

きづな
菜々
雅流

毎日句会みのる選・二〇一三年二月二三日